

子どもの貧困の把握に関する 教育機関向けアンケート調査 報告書

平成 29 年 3 月
認定 NPO 法人フードバンク山梨

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



目次

I. 調査の経緯と所感	1
II. 調査の概要	3
1. 調査の目的	
2. 調査方法と回収状況	
3. 主な調査項目	
4. 調査結果を見る際の注意事項	
III. 調査結果の要点	4
IV. 調査結果の概要	5
1. 子どもの貧困の把握に関して	5
2. 子どもの貧困への対応	10
3. 貧困が子どもに与える影響	13
V. 調査に関する考察	17
VI. 記述回答一覧	18
アンケート調査票	33



I. 調査の経緯と所感

認定 NPO 法人フードバンク山梨

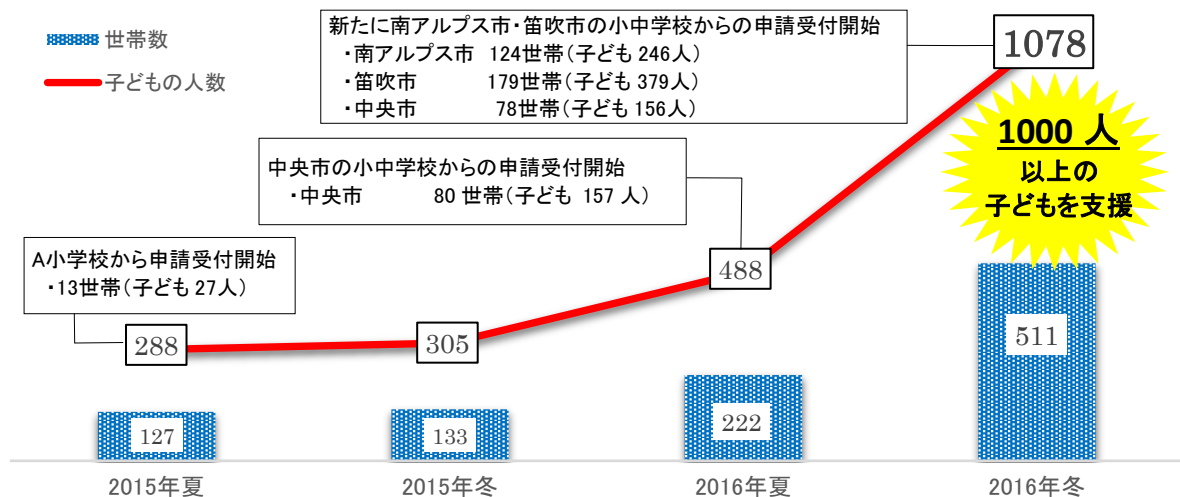
理事長 米山けい子

経緯

認定 NPO 法人フードバンク山梨では、全国に先がけ、学校給食の無い夏休みや冬休みに、子どものいる困窮世帯を重点的に支援する「フードバンク子ども支援プロジェクト」を 2015 年の夏に開始しました。2016 年の冬のプロジェクトでは 511 世帯 1078 人の子ども達への食料支援と、希望者には学習支援も実施することが出来ました。

この活動の特徴は、これまでの行政窓口を通じた支援世帯に加え、新たに学校との連携が始まったことです。この新たな連携により、これまでに見えなかった多くの困窮世帯の子ども達への支援が可能になりました。

支援世帯数・人数の推移



「フードバンク子ども支援プロジェクト」における学校との連携は、ある 1つの小学校の先生からの声で始まりました。「先生、何か食べるものない？」と空腹で夏休み中に学校に来た児童を、何とか救いたいと思った先生が、フードバンク山梨に電話したことがきっかけとなり、学校・市・教育委員会・フードバンク山梨との連携が進みました。



中央市との連携協定締結式

フードバンク山梨が 2014 年、2015 年に実施した食生活調査で、1食を平均 100～120 円で暮らす厳しい状況の子どもたちの実態が明らかになりました。今回の調査では、子ども達が 1日の大半を過ごす学校で、先生がどの様に実態を把握し、何が課題となっているかを明らかにすることにより、今後の子どもの貧困対策につなげていくことを目的としています。



所感

今回の調査で驚いたことは教育現場では、集金の未納や衣服の汚れ等から、子どもの貧困が見えていた部分があったという結果です。調査から「弟妹にご飯を食べさせる為、自分はあまり食べない」「運動靴がボロボロで何年も使っているようであった」「学校期間中は給食があるので食に困ることはないが、夏休みや冬休み等食べることに困るだろうと思った」等、子ども達の貧困に気づきながらも、どの様に対応していけば良いのかと、思い悩む先生たちの声も聞こえてきました。特に、先生達に対応に苦しんでいるのは、家庭への介入の難しさです。

「子どもが貧困状態にあると感じたのはどのような場面・状況であったか」という問いでは、集金の未納、衣服の汚れが割合として多い一方で、親から貧困状況を相談されたケースは最も少なかったのです。「貧困であることを他人には知られたくない」「人の世話にはなりたくない」等、日本における恥の文化が子どもの貧困への対応を、さらに困難なものにしています。その事が学校側が対策を講じたくても講じられない大きな要因となっている様に考えられます。

学校と親という関係だけでは解決できない子どもの貧困の問題を、誰もが陥るかもしれない貧困と考え、困ったときには SOS が出せる社会環境を作る必要があります。フードバンク山梨は行政・学校との連携により、見えない子どもの貧困を可視化し、地域の企業、市民との協働で地域に新たな縁を作り出す、食と心を支えるシステムづくりを更に進めていく必要性を強く感じています。

最後になりますが、本調査でご協力頂きました教職員の皆様、日頃より子ども達への支援のために連携している市、教育委員会の皆様に深く感謝申し上げます。皆様方とこれから更に力を合わせ、日本における子どもの貧困対策に力を尽くしてける事を願っております。



II. 調査の概要

1. 調査の目的

現在、学校を子供の貧困対策のプラットフォームと位置付け、総合的な子供の貧困対策を推進していく方針が政府から示されています。また、平成 31 年度までにスクールソーシャルワーカー（以下、SSW という。）を全中学校区（約 1 万人）配置することを目指しており、今後 SSW が急速に増員されることが予想されます。

そのような中、見えにくい子どもの貧困を教育機関でどの程度把握できているのか、また、学校における子どもの貧困について、課題を明らかにすることを目的としています。

2. 調査方法と回収状況

調査対象：小学校、中学校の教員

調査方法：学校にアンケート票を郵送、各学校ごとに回答をまとめて回収

調査期間：平成 28 年 9 月 29 日～10 月 20 日

表 1. 回収状況

対象教員数	回収数	回収率
212	153	72.2%

3. 主な調査項目

- ・子どもの貧困の把握に関して
- ・子どもの貧困への対応
- ・貧困が子どもに与える影響

4. 調査結果を見る際の注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・不明（無回答・無効回答）を除いて集計しているため、n と全体の回答数には誤差がある。
- ・百分率（%）の計算は、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、% を足し合わせて 100% に満たない場合や上回る場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、% の合計が 100% を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・自由回答の記述一覧（P18～）は誤字、脱字も原文のまま転記している。



Ⅲ. 調査結果の要点

1. 約半数の教員が子どもの貧困を把握している

2015年4月から2016年9月までの期間において、回答した教員のうち、約半数の47%（71名）が「子どもが貧困状況にある」と感じた経験が、あると回答しました。

2. 集金の未納、衣服の汚れなどから貧困に気がつくケースが多い

貧困を把握するきっかけは、「何らかの支払い・集金の未納」が63.4%（45名）が最も多く、次いで「子どもの衣服の汚れ・綻び」が45.1%（32名）でした。

教員は子どもと毎日接しているため、子供の貧困に気づきやすく、支援団体や行政が把握することが出来ない貧困世帯を把握することが可能であると考えられます。

3. 親から貧困について相談をするケースは少ない

貧困を把握するきっかけで、「家庭訪問の際に親から困窮状態について話があった」は8.5%（6名）、「家庭訪問の機会以外で困窮状況に関する相談を受けた」は7.0%（5名）であり、親からの相談で貧困を把握するケースは最も少ない事が分かりました。

4. スクールソーシャルワーカーが子どもの貧困対策として活用されていない

スクールソーシャルワーカーに相談をした経験がある教員は2%（145名中、3名）であり、相談内容も全て貧困以外の問題に関するものでした。

5. 家庭環境への介入の難しさが浮き彫りに

学校として十分な対応が出来ない理由としては、「プライベートな部分なので踏み込みにくい」、「保護者のプライドを傷つけていやな思いをさせてはいけない」、「家庭からの相談がないと触れにくい」等の意見が多く、家庭介入の難しさが明らかになりました。

6. 貧困世帯と思われる子どもは、学習意欲や自己肯定感が低い

貧困世帯と思われる子どもと、そうでない子どもとの比較において、

- (1) 「学習意欲が低いと思うか」という問いには、80%の教員が低いと思うと回答。
- (2) 「いじめの対象になりやすいと思うか」という問には、45%の教員がいじめの対象になりやすいと思うと回答。
- (3) 「自己肯定感が低いと思うか」という問では、73%の教員が低いと思うと回答。

貧困が子どもの学習意欲や自己肯定感に悪影響を及ぼしていることが分かりました。



IV. 調査結果の概要

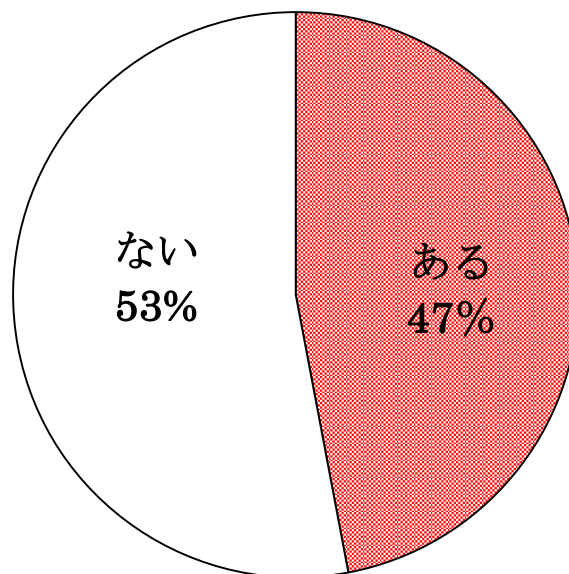
1. 子どもの貧困の把握に関して

(1)2015年4月から調査実施時期（2016年9月）までの期間で、子どもが貧困状態にあると感じたことがあるか。

表 2. 子どもが貧困状態にあると感じた経験（n=151、未回答 2）

回答選択肢	回答件数	割合
ある	71	47%
ない	80	53%

図 1. 子どもが貧困状態にあると感じた経験



分析 2015年4月から調査実施時期（2016年9月）までの期間で、「子どもが貧困状態にあると感じたことがありますか」という問いに、約半数の47%の教員が「ある」と回答した。

学校で教員は、児童と毎日会っている。そのため、支援団体や行政等、その他の機関・団体では把握できない部分までも把握することが可能である。

支援団体や行政が把握できていない困窮世帯の場合、子どもの通う教育機関が、その世帯に関わる唯一の公的機関である場合がある。従って、見えにくい子どもの貧困を把握する上で、教育機関は重要な役割を担うことができると考えられる。



(2)子どもが貧困状態にあると感じたのは、どのような場面・状況であったか。(1)で「ある」と回答した 71 人が回答対象者)

表 3. 子どもが貧困状態にあると感じた場面・状況（複数回答）

回答選択肢	回答件数	71 人に占める各回答の割合
家庭訪問の機会以外で困窮状況に関する相談を受けた	5	7.0%
家庭訪問の際に親から困窮状況について話があった	6	8.5%
その他	8	11.3%
子どもの行動	12	16.9%
体格	12	16.9%
学用品などが買えないことがあった	13	18.3%
家庭訪問の際に親から困窮状況に関する話はなかったが、生活状況から判断した	14	19.7%
体調・健康面	14	19.7%
子どもからの訴え	14	19.7%
子どもの衣服の汚れ・綻び	32	45.1%
何らかの支払い、集金の未納	45	63.4%

図 2. 子どもが貧困状態にあると感じた場面・状況（複数回答）

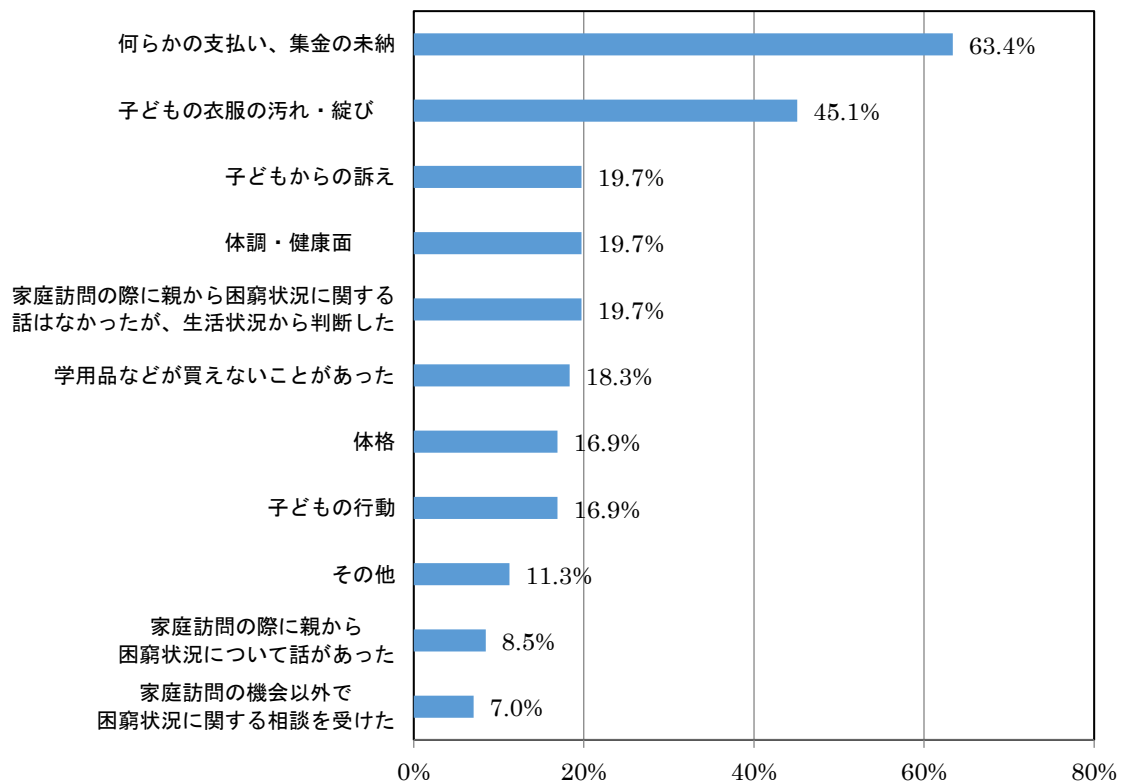
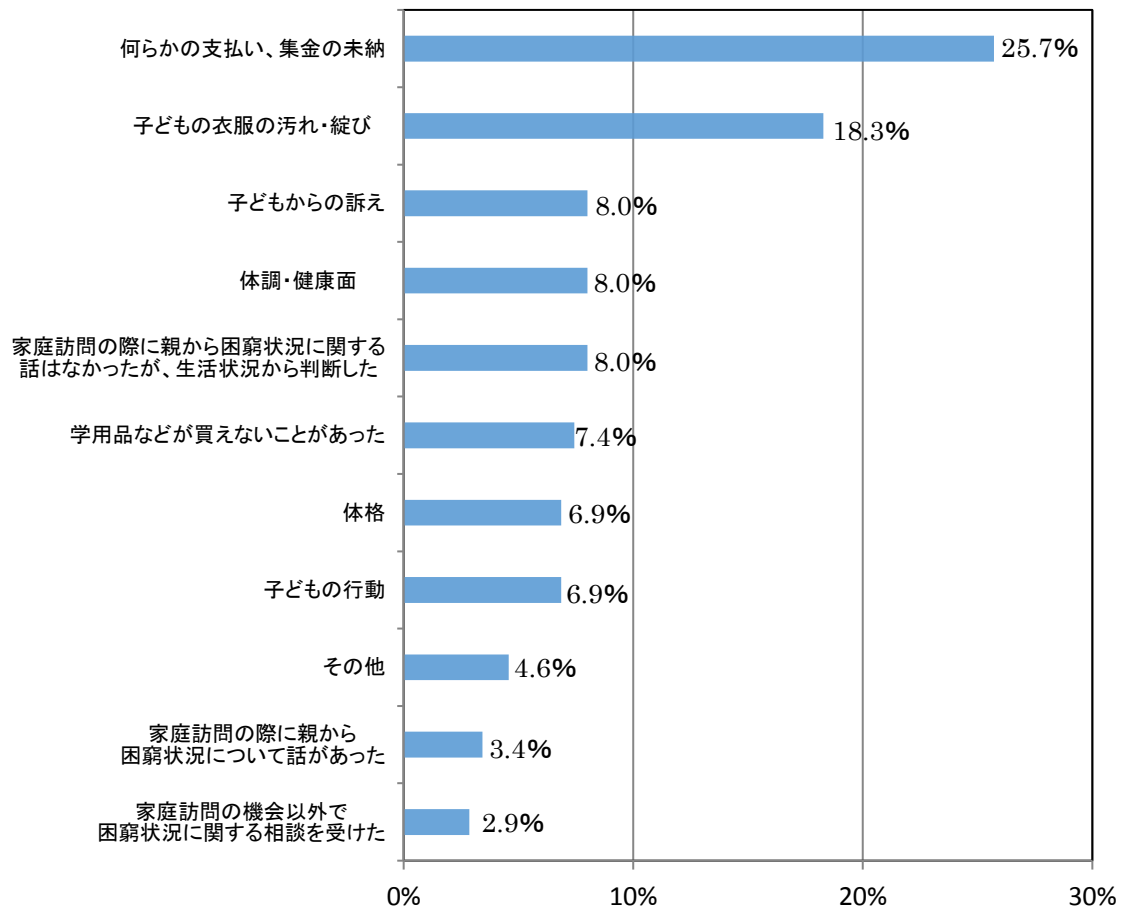




表 4. 子どもが貧困状態にあると感じた場面・状況、全回答（175 件）に占める各回答の割合

回答選択肢	回答件数	全回答（175 件） に占める割合
家庭訪問の機会以外で困窮状況に関する相談を受けた	5	2.9%
家庭訪問の際に親から困窮状況について話があった	6	3.4%
その他	8	4.6%
子どもの行動	12	6.9%
体格	12	6.9%
学用品などが買えないことがあった	13	7.4%
家庭訪問の際に親から困窮状況に関する話はなかったが、 生活状況から判断した	14	8.0%
体調・健康面	14	8.0%
子どもからの訴え	14	8.0%
子どもの衣服の汚れ・綻び	32	18.3%
何らかの支払い、集金の未納	45	25.7%

図 3. 子どもが貧困状態にあると感じた場面・状況（複数回答）





(3) (2) で「何らかの支払い、集金の未納」を選択した教員の記述回答 (P22) から抜粋

- ・集金の未納 (〇月〇日まで待って下さい等の言葉) 2千数百円なのに、はらえない。
- ・給食費の支払いの遅れ。学年費...etc は市の補助で払っている。
- ・集金日に支払えるのは 2/3 程度
- ・集金が常に遅れる。(給料日になり、やっと提出できる)
- ・集金のおくれ、「お金がないんだって」の言葉。
- ・「何日にならないとはらえない」ということがありました。
- ・毎回、同じ生徒に督促状を渡すので気になる。

(4) (2) で「子どもの衣服の汚れ・綻び」を選択した教員の記述回答 (P18) から抜粋

- ・毎日、えり、そでが真っ黒なシャツを着ている
- ・赤白ぼうしのゴムが切れていて、直すことをお願いしても、そのままの状態だった。
- ・学校ではく上ばきの底の部分が、完全にはずれていたが、ビニールテープでとめてはいたり、はかないでくつ下のまま過ごしていた。
- ・運動靴がボロボロで、何年も使っているようであった。体育祭も近いので、他のはあるかと聞いたら「これしかない」と言っていた。
- ・汚れによりにおう。すそがほころび、そのままになっている。
- ・上ばきが小さくて、やぶれている。きつくて、ガマンしてはいている。
- ・靴下左右別のものをはいてくる。(同じものがなかったからという理由だが頻度も多く、あまり親にみてもらっていない様子)

分析 子どもが貧困状態にあると感じたことが「ある」と回答した教員 71 人のうち、45 人 (63.4%) が「何らかの支払い、集金の未納」から子どもの貧困を察知している。次に多い回答は「子どもの衣服の汚れ・綻び」の 32 人 (45.1%) であった。家庭訪問やその他の機会に親から困窮状況について話があったというケースは 11 人 (15.5%) と少なかった。

教育現場では、特に支払いや集金の際や衣服などから子どもの貧困に気づくことが多い。その一方で親から困窮状況について相談されることは、少ない事が明らかになった。

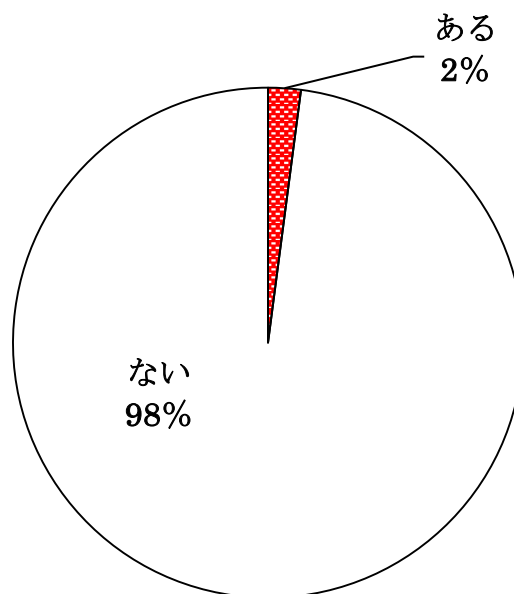


(5) 2015 年 4 月以降に SSW に相談をしたことがあるか。

表 5. SSW に相談した経験 (n=145、未回答 8)

回答選択肢	回答件数	割合
ある	3	2%
ない	142	98%

図 4. SSW に相談した経験



(6) (5) で SSW に相談したことが「ある」と回答した教員の記述回答

- ・ネグレクト。
- ・上記生徒以外の生徒で、SSW と連携をとっている生徒がいます。3 人家族で、1～2 部屋程度の広さで住んでいますが、特に貧困を感じることなく生活しているように思います。
- ・発達障害傾向（未診断）の児童への対応が正しいかどうか。

分析 SSW に相談したことがあると回答したのは 3 件（2%）と極めて少ない。また 3 件とも相談内容は貧困ではなく、その他の問題であった。(1) で子どもが貧困状態にあると感じたことが「ある」と、71 人の教員が回答していたものの、子どもの貧困に関して SSW に相談したというケースは無なかった。

SSW への相談件数が少ない背景には、SSW の配置人数の少なさや家庭のプライバシーに踏み込むことへの躊躇、学校で SSW の役割が理解されていない可能性などが考えられる。



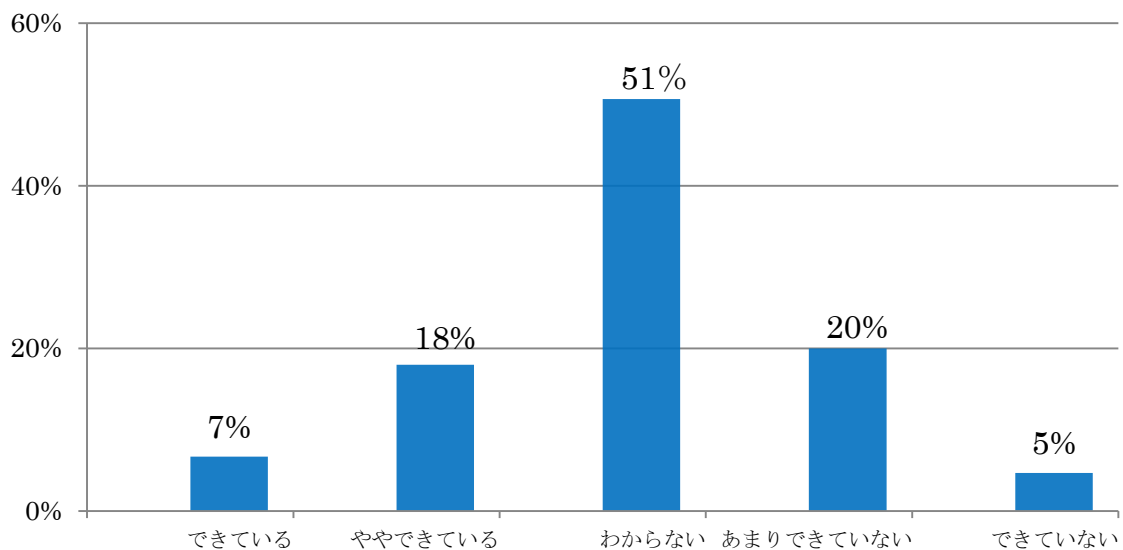
2. 子どもの貧困への対応

(1) 貧困状態にある子どもを発見した時に、学校として十分な対応ができていると感じるか。

表 6. 貧困状態にある子どもを発見した時の学校の対応 (n=150、未回答 3)

回答選択肢	回答件数	割合
できている	10	7%
ややできている	27	18%
わからない	76	51%
あまりできていない	30	20%
できていない	7	5%

図 5. 貧困状態にある子どもを発見した時の学校の対応



(2) (1) で「できている、ややできている」を選択した教員の、具体的な対応策を記述回答 (P26) から一部抜粋

学校内で対応

- ・管理職を中心とした情報交換、教材等をかすなどの支援、町や市の福祉課との連携。
- ・全職員の共通理解のもと見守り（朝食抜きで登校の際に軽食を食べさせた。衣類の古着などの支援）
- ・子どもの小さな変化に気づき、職員間での連携、情報交換を行い、関係機関に相談をするような対応策ができている。



- ・学校にある、ジャージや物を貸してあげた。担任だけでなく、主任や教頭も事あるごとに訪問した。
- ・お菓子をあげる、ジュースを飲ませてあげる。
- ・学校のを貸す。
- ・不要になった体操着、ランドセルの回収をし、必要な家庭に渡している。

他機関との連携

- ・市や児童福祉センター相談所への連絡・相談。
- ・役場や児童相談所など専門機関への相談・連携。

公的支援制度の紹介

- ・就学援助をすすめる。学用品など配慮する。
- ・学用品等の補助金。
- ・奨学金のお知らせ通知している。

保護者への対応

- ・懇談等で丁寧に話す。
- ・相談にのる。補助を受けられるところを紹介する。

フードバンク紹介

- ・細かな実態把握と、フードバンクとの連携等が行えていると考えます。
- ・教材を安いものにしたたり、使わなくて良いものを厳選している。フードバンク等協力できることを声をかけ合っている。

分析 学校では具体的な対応策として、お菓子や軽食等、食べ物を食べさせたり、体育着やランドセル等の物品の提供、職員間での情報共有や見守り、他機関との連携や就学援助などの公的支援制度やフードバンクの紹介等を行っている。

(3) (1) で「できていない、あまりできていない」を選択した教員が、十分な対応ができていないと感じる理由を記述回答 (P27) から一部抜粋

家庭介入の難しさ

- ・個々の状況がいろいろあること、プライバシーを侵害されたくない、という気持ちにふみこみにくいことなど。
- ・プライベートに関わることなので、どこまで踏みこんで良いのかわからない。



- ・児童の実態把握が難しいので、はっきりした情報が得られにくいので対応しにくい。
- ・子どもの貧困の状況が学校に伝わってきていない。
- ・公的な援助をすすめても、それにあてはまらない家庭も多い。(収入はあるが、子どもにはお金はまわらず、借金や何らかの理由で、なくなってしまうなどのことがある)
- ・朝食摂取など、実態の調査を、定期的(学期に一回程度)行うようになり、懇談の折に、保護者に話をしてもらおうようになった。(前より改善の方向に向かっていると思うが、根本の解決には至っていないから)。保護者がどうやって「金」をかせぐかを学校で解決するのは無理。
- ・家庭の方から学校に話をしてくれれば、対策も考えられるが、こちらから言いにくい。
- ・家庭状況のちがいがあがり、他者から見ると貧困に見えても 当事者はそう思ってなくて声をかけづらいことがある為。
- ・外国籍生徒で父母ともに十分に日本語が話せないため、現状の把握が難しいことが、1 番の課題だと思います。

学校の支援予算不足

- ・学校には直接対応するための予算がない。
- ・経済的な貧困に対して、できる援助が少ない。(制服、ジャージ、カバン等か)
- ・貧困家庭が多く、一軒に何かをあげたりしたら、全員にあげなければならず、それはできない。家庭が大変でも、お願いするしかない現状。
- ・援助する資金がない。朝ごはんを食べずに来る子に菓子パンを食べさせる程度のことしかできない。

対応策が不明

- ・どういうふうに学校が対応するか、きめられていない。
- ・どう対応してよいか自分自身も分からないし、周囲でも聞いたことがない。
- ・具体的な手立てが講じられない。
- ・フードバンクの呼びかけをする以外、具体策や具体的な対応が見当たらない。

外部機関との連携不足

- ・家庭の経済状態まで詳しく把握することは難しく、(情報提供がないと)学校は大勢の子どもを預かるので、ひとりの子どもにだけ継続して十分な対応をすることは、難しいと思う。学校は、主は教育の場である、行政が配慮することが、重要であると思います。
- ・当時は、関係機関との連携の知識などもなく、学校でできることが、固々の関わりだけだったように思う。
- ・相談に乗ったり、アドバイスをすることは学校側がしていたが、具体的に家庭の状況についてくわしく調べたり、お金の管理の仕方、就職先について紹介するというようなこ



とは他機関に任せていた。学校との連携がうまくいっていなかった。

分析 記述回答から家庭への介入の難しさが浮き彫りになった。「プライバシーな部分なので、深く立ち入れない。はっきりした情報が得られないので対応しにくい。保護者のプライドを傷つけていやな思いをさせてはいけなとと考えて言い出せない。家庭の方から学校に話をしてくれれば、対策も考えられるが、こちらから言いにくい」など、保護者の自尊感情への配慮や、貧困であるという疑いだけで介入した際に、反発を受けるリスクなどもあるため、家庭に介入することに躊躇せざるを得ない現状が明らかになった。

また、「学校には支援するための予算がない。教育が担当なので、生活面までのサポートは出来ない。対応策が不明で、学校としてどのように対応するか決められていないので、何をしていたか分からない」といった意見もあった。

3. 貧困が子どもに与える影響

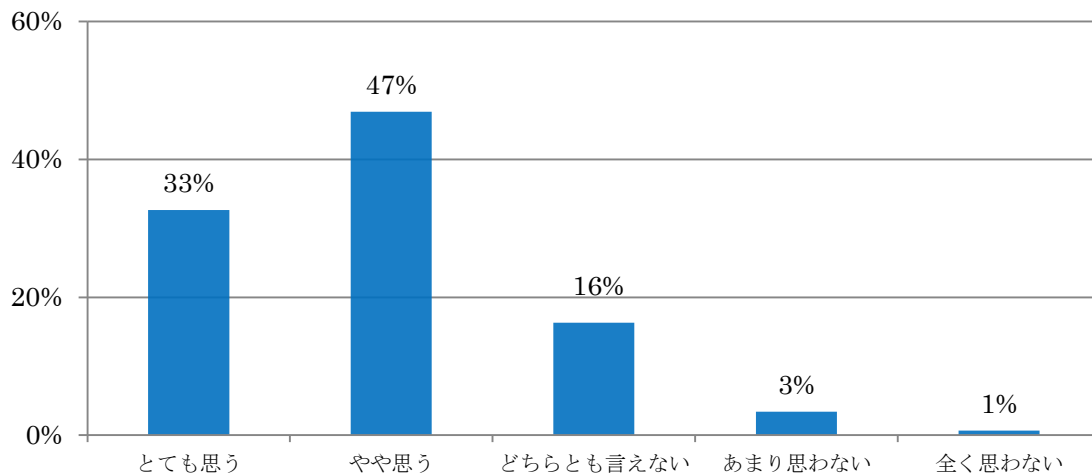
(1) 貧困世帯と思われる子どもは、それ以外の子どもと比べて、以下の項目が当てはまると思うか。

表 7. 貧困が子どもに与える影響、各項目への回答件数

	とても 思う	やや 思う	どちらとも 言えない	あまり 思わない	全く思 わない	回答数 合計	未回答
宿題への取組状 況が良くない	48	69	24	5	1	147	6
自己主張や積極 性が低い	10	46	74	11	5	146	7
自己肯定感が低 い	27	81	32	4	3	147	6
学習意欲が低い	36	77	28	4	2	147	6
いじめの対象に なりやすい	11	56	64	14	2	147	6



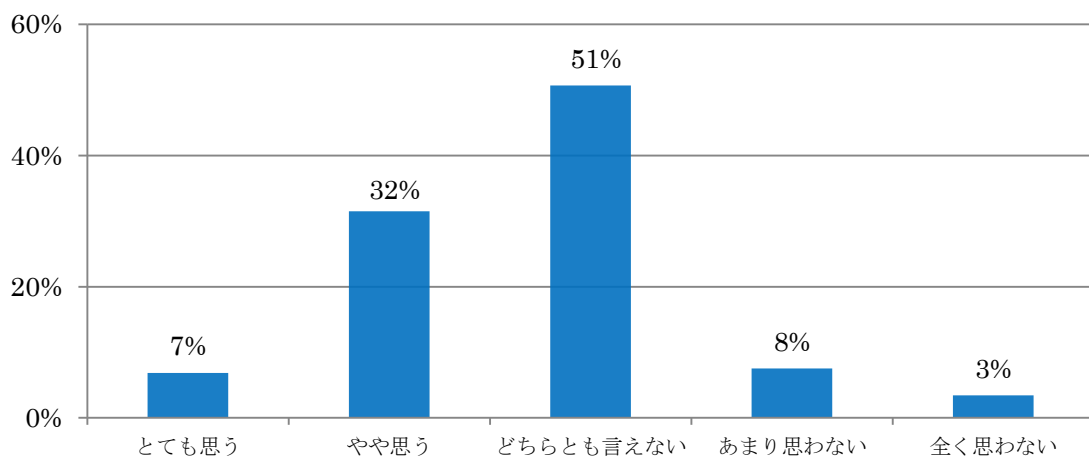
図6. 「宿題への取り組み状況が良くない」と思うか (n=147、未回答6)



分析 貧困世帯と思われる子どもは、それ以外の子どもと比べて「宿題への取り組み状況が良くない」と思うか、という問いには「とても思う、やや思う」を合せると 80%が良くないと思うと回答した。

フードバンク山梨では食料支援に加え、2013 年から困窮世帯への訪問相談支援も実施してきた。そのような経験から、貧困世帯の子どもの宿題への取組状況が良くない背景には、子どもがお腹を空かせていることが多く、勉強をする気力が出なかったり、勉強部屋や机が無いなど、宿題をする環境が無い場合や、ひとり親世帯などではダブルワークなどで親が忙しく、子供の宿題を見る時間をつくれないう等の要因が考えられる。

図7. 「自己主張や積極性が低い」と思うか (n=146、未回答7)

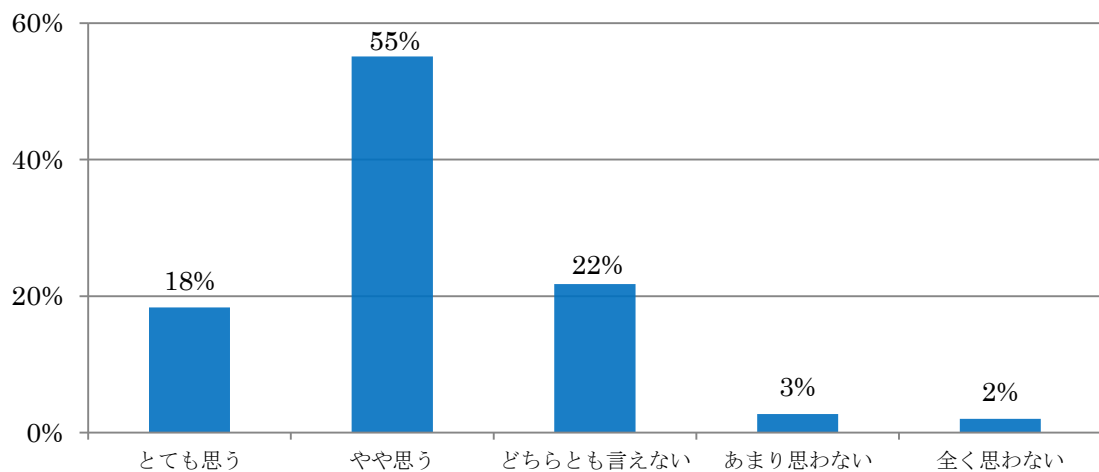


分析 貧困世帯と思われる子どもは、それ以外の子どもと比べて「自己主張や積極性が低い」



と思うかという問には、「どちらとも言えない」が51%と最も多かった。次に多かったのは「やや思う」の32%であった。「とても思う」、「やや思う」の回答が39%であった一方で、「あまり思わない」、「全く思わない」と回答したのは11%であったことから、貧困が子どもの自己主張や積極性の低さに影響を及ぼしていると考えられる。しかし、約半分は「どちらとも言えない」と回答していることから、自己主張や積極性の低さに関しては、貧困以外の例えば、元々の子どもの性格等、別の要因も影響していると考えられる。

図8. 「自己肯定感が低い」と思うか (n=147、未回答6)



分析 貧困世帯と思われる子どもは、それ以外の子どもと比べて「自己肯定感が低い」と思うかという問いには、「とても思う」、「やや思う」を合わせると、73%が自己肯定感が低いと思うと回答した。

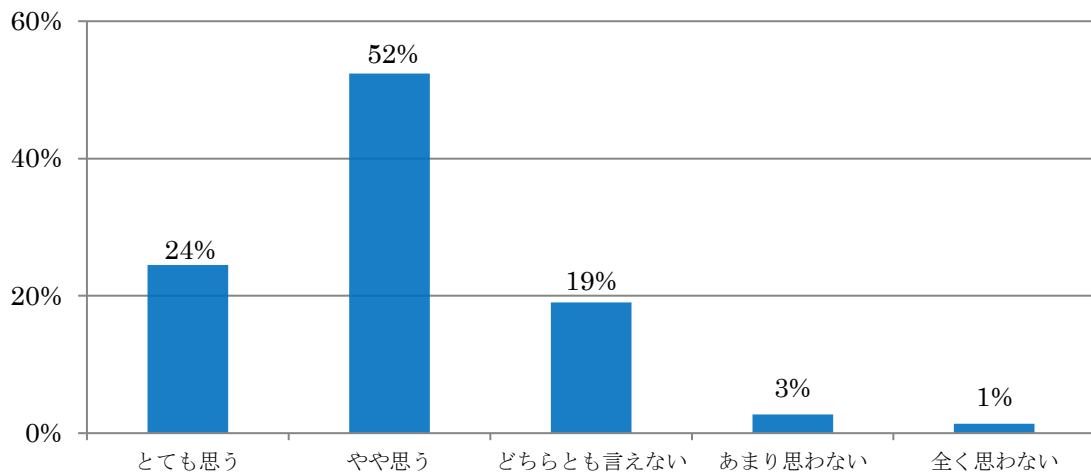
自己肯定感が低くなる理由としては、他の子どもと比べて劣っていると感じる経験をしたり、家庭や学校で自分を認めてもらえる機会が少ないことが考えられる。例えば、新しい物が買えず、ボロボロの上履きや汚れた服を毎日身に着けなくてはならない等、恥ずかしい思いや、惨めな思いを繰り返し経験することが、自尊感情が低下する要因になっていると考えられる。

また、宿題や勉強を親が見る機会があれば、出来たところを褒めてもらえる機会もあるが、貧困世帯の親には時間的、精神的な余裕がなく、子どもの自尊感情を育むようなコミュニケーションをとることが難しいことも要因の1つである。さらに、これまでの相談支援の経験から、親に精神的な余裕が無い場合、子どもに対して否定的な言葉を投げかけてしまう、という事例も見受けられている。

大人と違い、子どもには学校と家庭しかない。そのため、その両方で居場所が無かったり、褒められたり、認めてもらえる経験ができないと、子どもの自尊感情は低下してしまい、結果的に、前向きに物事を考えたり、夢や希望を持つことができなくなってしまう。

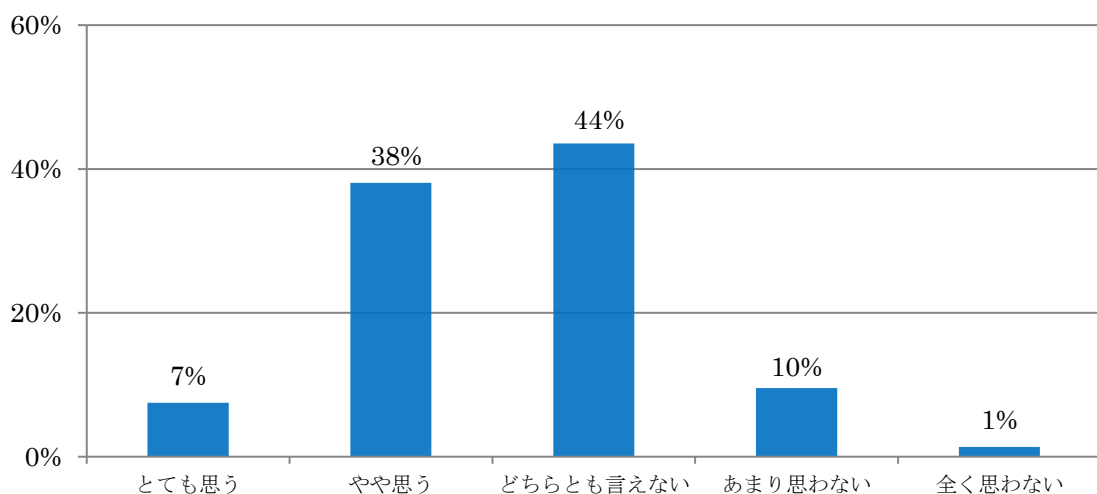


図9. 「学習意欲が低い」と思うか (n=147、未回答6)



分析 貧困世帯と思われる子どもは、それ以外の子どもと比べて「学習意欲が低い」と思うかという問いには、「とても思う」、「やや思う」を合わせて76%が学習意欲が低いと思うと回答しており、「宿題への取り組み状況が良くないと思うか」の項目と同じような結果となった。

図10. 「いじめの対象になりやすい」と思うか (n=147、未回答6)



分析 貧困世帯と思われる子どもは、それ以外の子どもと比べて「いじめの対象になりやすい」と思うかという問いには、「どちらとも言えない」が44%と最も多くなっている。「とても思う」、「やや思う」の回答が45%であった一方で、「あまり思わない」、「全く思わない」と回答したのは11%であったことから、貧困がいじめの対象のなりやすさに影響していると考えられる。しかし44%が「どちらとも言えない」と回答していることから、いじめの対象になりやすいか否かは、貧困以外の別の要因も影響していると考えられる。



V. 調査に関する考察

国立大学法人 大分大学
福祉健康科学部 講師 川村 岳人

1. 子どもの貧困の把握

子どもが貧困状態にあると感じたのは 71 名（47.0%）と半数近くにのぼる。自由記述をみると、貧困状態を把握するきっかけとなったのは、子どもの衣服や保護者との関わり、学納金・給食費等の未納、家庭訪問時の状況など多岐に渡る。ここで重要なことは、これらがいずれも教育機関だからこそ知り得た情報である可能性が高いという点である。低所得と社会的孤立には相関があることは多くの調査研究によって指摘されてきたが、その知見を踏まえると、子どもが通う教育機関がその世帯に関わる唯一の公的機関である場合もあると考えられる。本調査の結果は、教育機関が貧困な状態にある子どもや世帯を把握する上で、重要な役割を担うことができる可能性を示唆する結果といえよう。

2. 子どもの貧困への対応

学校として子どもの貧困に十分な対応ができているかという質問に対し、「わからない」が 51%、「できていない」「あまりできていない」が計 25%となっている。このうち、「できていない」「あまりできていない」と答えた理由をみると、教育機関として教育以外の、しかも家庭のプライバシーに関わる貧困問題にどの程度、またどのように介入していいのか判断しかねている様子がうかがわれる。I の結果とあわせて考えると、子どもの貧困に気づいても、適切な対応ができずに苦悩する教育機関の姿が浮かび上がる。

また回答者のうち、スクールソーシャルワーカーに相談をしたことがあるという回答はわずか 3 件にとどまっており、しかも、相談の内容は心理的カウンセリングや虐待、発達など貧困以外のことであった。本調査の結果により、教育現場では貧困問題への介入に難しさを感じている一方、スクールソーシャルワーカーがこうした問題に対処する機関として十分に活用されていないことが明らかになった。

3. 貧困が子どもに与える影響

貧困と思われる世帯の子どもが「宿題への取り組み状況が良くない」という設問に対して「とても思う」「やや思う」という回答が計 80%、同様に「学習意欲が低い」が 76%、「自己肯定感が低い」が 73%となっている。これらはいずれも貧困世帯で育つ子どもの特徴として経験的に指摘されてきたが、本調査ではこうした指摘を追認する結果が示された。これらの結果は、貧困世帯に育つ子どもが学習活動で遅れを取る可能性があることを示唆するものであり、放置しておけば、子どもの低学歴、ひいては貧困の世代間再生産の要因となることが懸念される。すなわち、本調査の結果は、子どもの貧困という社会問題について、早急に社会的な対策を講じる必要があることを示していると考えられる。



VI. 記述回答一覧 (346 件) (記述の表記は、誤字、脱字も原文のまま転記。)

1. 子どもが貧困状態にあると感じたのは、どのような場面・状況であったか (147 件)

子どもの衣服の汚れ・綻び (29 件)		
<p>汚れ 臭い 綻び サイズ違い</p>	<p>27 件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食着、体育着、上ばきの未洗い ・汚れている服を着ていることが多い。 ・体育着やエプロンが、汚れている。 ・制服のえりの裏が黒くなっていた。 ・体育着の汚れ。 ・毎日、えり、そでが真っ黒なシャツを着ている ・体育着、制服が汚い ・同じ服を連続で着ている。 ・2日続けて同じ服装をしていることなどもあった。 ・服の汚れ ・洗たくされていない服を何日も着てきた。 ・運動靴がボロボロで、何年も使っているようであった。体育祭も近いので、他のはあるかと聞いたら「これしかない」と言っていた。 ・制服のズボンがやぶれているのに、ずっと着ている ・ボロボロの体育着を着ている。ボロボロのくつ、上ばきをはいている。 ・手さげぶくろのひもが切れてしまっていたが、なかなか直してこなかった。 ・赤白ぼうしのゴムが切れていて、直すことをお願いしても、そのままの状態だった。 ・上ばきがボロボロでも変えない ・学校ではく上ばきの底の部分が、完全にはずれていたが、ビニールテープでとめてはいたり、はかないでくつ下のまま過ごしていた。 ・体育着のいたみ。 ・洗たくしておらず臭いことがあった。 ・靴のそこに穴があいていても履いている(靴下も)首の回りのほころび。 ・汚れによりにおう。すそがほころび、そのままになっている。 ・ジャージ等の汚れ、におい等 ・体育着のファスナーがこわれていた。体格に合わない体育着((小さい)ズボンが短い)を長くはいていた。 ・サイズの合わない衣服を着ている。 ・かなりサイズが合わなくなった衣類が見うけられる。上ばき等もボロボロになっても使うしかない状態。 ・上ばきが小さくて、やぶれている。きつくて、ガマンしてはいている。



ネグレクト	2件	<ul style="list-style-type: none"> 靴下左右別のものをはいてくる。(同じものがなかったからという理由だが、頻度も多く、あまり親にみてもらっていない様子) これは、貧困というより養育の問題(ネグレクト)かもしれません。季節に合わない服装…汗ばむような時にフリースを着てくる等いつも同じ衣服を着用…洗濯していない、臭いがついている(煙草等の不快な)
-------	----	---

子どもの行動 (9件)		
食事の様子	4件	<ul style="list-style-type: none"> 給食を人の3倍ほど食べる(女兒) 朝ごはんを食べずに登校。給食を2人前以上に食べる 給食時に食べることに必死な姿を見ることがある。 お弁当の内容
万引き	2件	<ul style="list-style-type: none"> 人のものをだまってポケットに入れてしまう。 欲しい物を万引きしてしまう。友達におごってくれるように頼む。
その他	3件	<ul style="list-style-type: none"> 花火に気をつけましようの注意勧告ポスターをずっと見ている。「やりたいよね」と声かけすると、「やりたくない」と答える。 親が働いてお金を稼ぐことに懸命で、子どもの放課後や休日の行動に目が行き届いていない。 すぐに他の子とトラブルを起こす。机にふしたり、床にねころんで動こうとしない。

子どもからの訴え (14件)		
家庭状況	7件	<ul style="list-style-type: none"> 高学年なのに自転車がない。おこずかいをもらえない。 お金が無いと親から言われると言っていた。 母が酒びたり、自分達(子供)のために金をつかわない。 「お金がないから〇〇を買ってもらえないの。」と家の事情を教師に訴える。 夏休みにディズニーランドや旅行はお金がかかるから行けない。 母子家庭で、親が遅くまで仕事をしていて十分なコミュニケーションがとれていない。 寒く、ねこをだいてねている、と聞いたことから。
欠食	6件	<ul style="list-style-type: none"> 朝ごはんは作ってくれない 食べるものがない 「朝ご飯を作ってくれない。」と言っていた。 お腹がすいて、何もやる気にならない! 食事のしたくなど、親がしないことがあたりまえになっている。 夕食がコンビニのパンとコーヒーだけという訴えがありました。 朝食を食べていない
その他	1件	<ul style="list-style-type: none"> 話している内容から



体格 (10 件)		
痩身・小柄	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・手・足が がりがりにやせている ・痩せている。体の線が細い。 ・やせている ・身体測定で、体重が増えていないまたは、低下している。 ・食事がしっかりとれていないケースで小さい ・小さい
肥満	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・炭水化物の過じょう摂取による肥満
その他	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝面もあるが、年齢相応の発達をしていない子を見たことがある。 ・朝食の少ない児童は、給食をおかわりする。(体格にはあまり関係ありませんが)。 ・給食をものすごく食べるが体格は、大きくない

体調・健康面 (12 件)		
欠食	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べてこない児童は朝から元気がない。 ・弟妹にご飯を食べさせるため、自分があまり食べない。 ・朝食を食べて来ないことが時々ある ・朝食を作ってもらえない。食べてこない。給食をかなり食べる。
医療機関 未受診	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に行きたがらない、行けない ・病院に行かず、歯や皮ふの状態がよくない。 ・身体のごれ、髪がからまり、ボサボサになっている。むし歯が多く、放置されている。(治療しない)
その他	5 件	<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良 ・お風呂に入っていないようにおいがする。 ・寝坊しがち ・夏休み中の体重減 ・ねこが大好きでアレルギー体質である。



家庭訪問の際に親から困窮状況について話があった。(6件)		
金銭問題	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集金等、遅れるむねの話聞いたことがあった。 ・ お金が払えないといううったえがあった。 ・ 高校入学のための制服など準備するお金がない→進学あきらめる？
その他	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活保護をうけている。 ・ 母親の夜間勤務、支援家庭申請の要望、乳児をかかえ働けない状況 ・ 家の中がかたづいていない

家庭訪問の際に親から困窮状況に関する話はなかったが、生活状況から判断した。(13件)		
生活環境の悪さ	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部屋の様子。乱雑 ・ 家の環境、様子等 ・ 生活環境が悪い。 ・ 家庭の整頓具合 ・ 室内の汚れ ・ 家の中の様子(ゴミだらけ) ・ 家の中の乱雑さ ・ 暑い夏の日により用事があり訪問した。気温が高い日だったが、クーラーはなく、玄関を開け放して生活していた。 ・ カップラーメンの山積み状態(キッチン)、障子やふすまの損傷 ・ 居食住が全て1部屋で成り立っていた。6畳2間の賃貸アパートに、父、母、祖父母、子どもの5人が生活していた。
その他	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年費などが一切支払えない。 ・ 朝食を食べていない ・ 実際的な衣服の汚れや綻びよりも、その状況に気づき、対応することが困窮状況だと思った

家庭訪問の機会以外で困窮状況に関する相談を受けた。(4件)		
金銭問題	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の大会時、お弁当を持って来なければならない日の連絡を電話で話したところ、給料日前でお金がなく、つくれないと母親に言われた。 ・ 弁当持参の日にお金がなく弁当が作れないので“欠席させる”という連絡があった。
その他	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援家庭申請の要望 ・ 進学に対して消極的



何らかの支払い、集金の未納 (32 件)		
未納	32 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集金の未納 ・ 集金が毎月未納 ・ 2~3 ヶ月未納が続いた。 ・ 集金の未納 (〇月〇日まで待って下さい等の言葉) 2千数百円なのに、はらえない。 ・ 集金や、積立金の遅滞が目立った。(生活の苦しそうな家庭) 経済的に ・ 教材費等の支払いの状況が遅い ・ 年単位で集金が滞る ・ 給食費の支払いの遅れ。学年費...etc は市の補助で払っている。 ・ 毎月決まって未納だったり支払が遅れる家庭がある。 ・ 集金日に支払えるのは 2/3 程度 ・ 集金が遅れる ・ つみ立て金や集金がおくれている、なかなか払えない家庭があります。 ・ 集金日にお金を持って来れない場合が多く、滞納していた。 ・ 集金が常に遅れる。(給料日になり、やっと提出できる) ・ 集金が遅れる。 ・ 集金のおくれ、「お金がないんだって」の言葉。 ・ 集金が払えないと子どもが学校に伝えてくる。 ・ 給食費未納 ・ 給食費未納が多いことから ・ 学納金、給食費の滞納 ・ 給食費、学納金の滞納。 ・ 給食費、積立金の未納 ・ 給食費、教材費などの集金や支払いができない。 ・ 給食、学年費等がはらえない ・ 学納金の引き落としができない状態が続いている。 ・ ほとんど学納金はふりこまれていない。 ・ 学納金の未納 ・ 学納金 ・ 学年費の未納があった。 ・ 「何日にならないとはらえない」ということがありました。 ・ 外国籍の児童の家庭で、引き落としができず、支払もなかなかしていただけなかった。 ・ 毎回、同じ生徒に督促状を渡すので気になる。



学用品などが買えないことがあった。(9件)		
学用品	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノカを買えない、という家があった。 ・筆記用具を用意できない子がいる。 ・歯ブラシがない。 ・4月に転校してきた子が、9月の運動会の練習が始まっても、体育着を「買ってもらえない。」といていた。(4月に、学校の体育着をあげたが、サイズが大きかったようで、着なかった) ・良い品質の学用品の方が使いやすいが、安価な物を求めてくるが、とても使いにくく、すぐにこわれてしまったりする。 ・4月にはそろえることができず、少しずつ学用品をそろえている。 ・必要なものがなかなか揃わず、いつも誰かに借りていた。
未納	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の自主見学費(¥2,000程度)の支払いができなかった。 ・次の給料まで、まってほしいと親から話があった。

その他(9件)		
就学援助申請	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・就学援助の申請によって ・就学援助の申請 ・就学援助への申請が増えてきている。
子どもの声	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・余裕はないが、親が自分にお金を使ってくれないと言っていた。(お酒などにつかってしまおうらしく・・・) ・昼食をたべない 「どこにも出かけないもの」の言葉。
その他	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強ができないけど、家庭教師が頼めないの、NPO法人を通じて要請があった。 ・児童館の先生よりの情報 ・準要保護の申請 ・住んでいるところ(住居ではないテナントに生活)

2. 子どもが貧困状態であると感じた際に、どのような手立て・対応をしたか。(49件)

給食や物品の提供	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・給食をしっかり食べさせる。 ・給食をたくさん食べさせた。 ・給食のごはんが残ったら、おにぎりにして冷凍しておき、必要な時に食べさせるようにした。 ・学校給食をしっかり食べさせた。
----------	-----	---



		<ul style="list-style-type: none"> ・給食を2学期から、たくさん食べさせる ・給食を多めに食べさせたり、もう何年も前の落とし物の筆記用具をあげるくらいしかできていません。 ・集金を待った。給食をたくさん食べさせた。ランドセルのお古を寄付（学校に） ・話をよく聞くようにしたり、学校で貸せるものは、貸したりして対応した。 ・教材等、学校でそろえることができるものは買わなかった ・歯ブラシを買って渡した 顔や手足を洗った 発育測定を行なった（身長・体重をはかる）
就学援助	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・就学援助費の申請うながし ・就学援助の手続きを紹介した。 ・就学援助などの手続きをすすめる。 ・就学援助への申請のよびかけ ・就学援助を紹介し手続きを進めた。 ・修学援助等の公的支援をすすめる。 ・就学援助の継続。折に触れて、本人から日頃の家庭の様子を聞く。 ・申し送りで既書いてあった。就学援助の対象になっている。
子どもへの対応	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・表情や服そうなどに気を配り注意してみるようにした。ふだんの言動からは貧困を感じたことはなかった。 ・目をかけ、気をかけ、困っていることはないか話を聞く。経済格差が学力格差に連鎖しないよう、学習面をよくみる。 ・普段より気にして目をかけた。 ・大丈夫？困ったときは相談するようにねという声かけ ・様子を観察し、声をかけるようにしている。 ・特に対応はしていないが、普段の様子をよく観察した。 ・教師が切れたゴムを縫い合わせ、その場をしのいだ。（1の衣服の回答で、「赤白ぼうしのゴムが切れていて、直すことをお願いしても、そのままの状態だった。」と回答した教員の記述）
保護者への対応	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・集金についてはTELをかけ工面してもらえようをお願いをした。就学援助の制度があることを情報として伝えた。 ・外国籍の児童なので、家庭訪問や懇談会で、それとなくアレルギーのことを伝えながら、生活面でのことを聞いている。 ・家庭の状況を把握するために連絡を密に取った。 ・おにぎりだけでも、何とか用意できないかとお願した。 ・家庭訪問 ・子どもの実態を連絡し、様子を見てもらえるようお願いした。 ・“学校へ来させて下さい。何とかします。”と話した。当日は、弁当を持参したが、なければ担任が買ってやるつもりだった。（前項の家庭訪問の機会以外で困窮状況に関する相談を受けたで、「弁当持参の日にお金がなく弁当が作れないので“欠席させる”という連絡があった。」と回答した教員の記述）



学校内で連携	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞きとり、管理職や関係機関と連携して ・教頭先生に直接対応していただいた ・担任と相談した。 ・担任に様子を聞いて家庭状況を確認する ・担任の先生に様子を伝え、対応して頂いた。 ・担任に伝え、家庭の状況を確認。クラス全体に体の清潔、衣服の季節に合った着方を指導。その後、個別に話をする。
外部機関と連携	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・中央市子育て支援課に相談。連携して支援 ・子育て支援に相談。児童相談所に相談する。ケース会議なども行った。 ・児童相談所との連携 ・フードバンクをすすめさせていただいた。
公的支援制度の紹介	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所福祉課→貸付制度の紹介 ・市町村からの補助を受けられるよう助言した。 ・支援家庭（準要保護家庭）の紹介
貸し出し	2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や通訳の先生と相談し、私の息子のはかなくなった上ばきに「〇〇小」と書いて、買ってもらえるまで、学校のものとして貸すことにした。（今も、買ってもらってなくて、そのままはいている。） 保健室の先生や通訳の先生と相談し、運動会までは、学校の体育着を貸した。おうちの方に、運動会までには買ってあげて下さい、と頼んであったので、運動会の日には、買ってもらって、うれしそうに着ていた。 ・足りない物、必要な物について「～があるといいネー！」といったような話をしないで、私の持っている物を借す。
その他	2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・何もしていません ・公的な補助金申請のおすすめと手続きへの手伝い。かげながらの物質援助（クーピー、絵の具、体育ぎ、他の学用品をかしてやる）

3. 2015 年 4 月以降にスクールソーシャルワーカーに相談をしたことはあるか。（3 件）

その他	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ネグレクト。 ・上記生徒以外の生徒で、SSW と連携をとっている生徒がいます。3 人家族で、1~2 部屋程度の広さで住んでいますが、特に貧困を感じることなく生活しているように思います。（学用品などが買えないことがあったの回答で、「修学旅行の自主見学費（¥2,000 程度）の支払いができなかった。」と回答した教員の記述） ・発達障害傾向（未診断）の児童への対応が正しいかどうか。
-----	-----	--



4. 貧困状態にある子どもを発見した時、学校として十分な対応ができていると感じるかの間に「できている」、「ややできている」と回答した教員の具体的な対応策。(35件)

<p>学校内で対応</p>	<p>12件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うたがいがあある場合に まず 学校間で連携をとり、対応している。 ・学校にある、ジャージや物を貸してあげた。担任だけでなく、主任や教頭も事あるごとに訪問した。 ・どこまで学校ですべきか考える。 ・管理職を中心とした情報交換、教材等をかすなどの支援、町や市の福祉課との連携 ・全職員の共通理解のもと見守り（朝食抜きで登校の際に軽食を食べさせた。衣類の古着などの支援） ・子ども達の観察をしっかりとっている。 ・子どもの小さな変化に気づき、職員間での連携、情報交換を行い、関係機関に相談をするような対応策ができている。 ・学習用具などは、予備のものをあげる。 ・学校のを貸す。 ・不要になった体操着、ランドセルの回収をし、必要な家庭に渡している。 ・お菓子をあげる、ジュースを飲ませてあげる ・給食をしっかりと食べさせている
<p>他機関との連携</p>	<p>7件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市や児童福祉センター相談所への連絡・相談。 ・SSW との連携、児相への通報。 ・保護者との話し合い 関係機関との連携。 ・専門機関と連絡を取り合う。 ・役場や児童相談所など専門機関への相談・連携 ・他機関へのつなぎ ・他機関との連携
<p>公的支援制度の紹介</p>	<p>7件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・援助や手だてをできるかぎり利用しようとしてるから。 ・給食費免除→このお金を家庭に当てる？ ・就学援助を紹介する。 ・就学援助をすすめる。学用品など配慮する。 ・就学援助制度の周知 申請書作成の助言 ・学用品等の補助金 ・奨学金のお知らせ通知している。



保護者への対応	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談等で丁寧に話す。 ・昼食がとれたか聞き、保護者にも働きかけた。 ・相談にのる。補助を受けられるところを紹介する。
フードバンク紹介	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・フードバンクの紹介（本校5年の米も一昨年寄付させていただきました） ・フードバンクを紹介 ・細かな実態把握と、フードバンクとの連携等が行えていると考えます。
その他	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を安いものにしたたり、使わなくて良いものを厳選している。フードバンク等、協力できることを声をかけ合っている。 ・具体的には事例がないためわからないが、あった場合には管理職、学年、養教、SC、市などが連携できると考えます。 ・役所（福祉課との）に連絡する。準要保護への手続きを進める。校内の職員や卒業生によびかけて、リサイクル品を準備してあげたりした。

5. 貧困状態にある子どもを発見した時、学校として十分な対応ができていると感じるかの間に「できていない」、「あまりできていない」と回答した教員が、十分な対応ができていないと感じる理由（36件）

家庭介入の難しさ	19件	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーもあるかと思ひ、どこまで、どのように手立てをしてよいか分からないところが現状です。 ・家庭の問題は 極めてプライベートなので 踏みこみにくい。 ・個々の状況がいろいろあること、プライバシーを侵害されたくない、という気持ちにふみこみにくいことなど。 ・プライベートに関わることなので、どこまで踏みこんで良いのかわからない。どのような対応策があるのか具体的にわからない。 ・何をしたらよいかわからない。プライバシーな面なので、深く立ち入れない。 ・外国籍生徒で父母ともに十分に日本語が話せないため、現状の把握が難しいことが、1番の課題だと思います。 ・家庭の事情なので、どこまで家庭に踏みこむべきか対応に躊躇してしまう。 ・児童の実態把握が難しいので、はっきりした情報が得られにくいので対応しにくい。 ・子どもの貧困の状況が学校に伝わってきていない。 ・家庭の方から学校に話をしてくれれば、対策も考えられるが、こちらから言いにくい。 ・家庭の状況にふみこみにくい（担任でないこともある） ・なかなか家庭内には入りづらいため。 ・家庭からの相談がないと触れにくい問題 ・親に特別な配慮が必要な場合が多く、でも学校が親を支援できないから。 ・貧困の背景には、単にお金がないだけでなく、お金の使い方も大いに関わっているため、子どものためのお金が、正しく使われていないことがある。
----------	-----	---



		<ul style="list-style-type: none"> ・公的な援助をすすめても、それにあてはまらない家庭も多い。(収入はあるが、子どもにはお金はまわらず、借金や何らかの理由で、なくなってしまうなどのことがある) ・食品やお金がなくて、食べられないのか？ 母親等がルーズでご飯を作らない場合なのか、がわかりにくい。 ・朝食摂取など、実態の調査を、定期的(学期に一回程度)行うようになり、懇談の折に、保護者に話をしてもらった。(前より改善の方向に向かっていると思うが、根本の解決には至っていないから)。保護者がどうやって「金」をかせぐかを学校で解決するのは無理 ・家庭状況のちがいがあり 他者から見ると貧困に見えても 当事者はそう思っていないで声をかけづらいことがある為
学校の支援予算不足	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・学校には直接対応するための予算がない。 ・経済的な貧困に対して、できる援助が少ない。(制服、ジャージ、カバン等か) ・経済的なことに対応する予算がない。 ・貧困家庭が多く、一軒に何かをあげたりしたら、全員にあげなければならず、それはできない。家庭が大変でも、お願いするしかない現状。 ・援助する資金がない。朝ごはんを食べずに来る子に菓子パンを食べさせる程度のことしかできない。 ・学校期間中は給食があるので、食に困ることはないが、夏休みや冬休みなど、食べることに困るだろうな・・・と思ったが、学校では、どうすることもできなかった。
対応策が不明	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・どういうふうに学校が対応するか、きめられていない ・具体的な手立てが講じられない。 ・フードバンクの呼びかけをする以外、具体策や具体的な対応が見当たらない。 ・何をしたらいいかわからない。 ・どう対応してよいか自分自身も分からないし、周囲でも聞いたことがない。
外部機関との連携不足	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済状態まで詳しく把握することは難しく、(情報提供がないと)学校は大勢の子どもを預かるので、ひとりの子どもにだけ継続して十分な対応をすることは、難しいと思う。学校は、主は教育の場である、行政が配慮することが、重要であると思います。 ・当時は、関係機関との連携の知識などもなく、学校でできることが、固々の関わりだけだったように思う。 ・専門機関との連携不足 権限 ・相談に乗ったり、アドバイスをすることは学校側がしていたが、具体的に家庭の状況についてくわしく調べたり、お金の管理の仕方、就職先について紹介するというようなことは他機関に任せていた。学校との連携がうまくいってなかった。
その他	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の範囲を超える？何でもかかえ始めるときりがない。学校生活のこと、学習のことには全面的に責任を負う。 ・全体的に豊かだから一部のそうでない所に気が付かない。



6. 貧困状態にある子どもを発見した時、学校として十分な対応ができていると感じるかの間に「わからない」と回答した教員の記述。（7件）

<p>その他</p>	<p>7件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・（協力してもらい） 不用な学用品の回収（ジャージなど）し、貸与などする。教育委員会などへの報告・相談 ・プライベートのこともあり、具体的にどう行動していいかわからない。職員間→市への報告などは心がけている。 ・個人的なことなので、その話題に触れるタイミングがむずかしい。気分を害してはいけないと気になる。 ・学年費等をもってこられなかったりする時も、保護者のプライドを傷つけていやな思いをさせてはいけないと考えてなかなか言い出せない状況もある。 ・保護者があまりこまっていない。伝わらない。 ・学校だけでは解決できない。教育委員会や役所へ相談するしかない。学用品教材の工夫。（予算は平等だと思うので該当児童のみ用意してあげられないと思う） ・あまり多くの事例がないため。今後も生徒の様子を観察し、支援をしていきたい。
------------	-----------	---

7. 子どもの貧困を今以上に早期に把握し必要な支援を行なうために、教育機関は何ができるか（69件）

<p>外部との連携</p>	<p>19件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しかるべき機関との連携が必要。家庭の実状を把握するためのお手伝いや情報収集はできる ・外部機関への通報 ・連携ができる機関を把握し、積極的に連携を行っていくことができると考えます。 ・行政諸機関及び民間団体との連携、連帯。 ・他機関との連携 ・保護者、地域との連携、情報交換を密にする。 ・貧困世帯を把握し、外部専門機関や、行政と連携すること。 ・市役所（役場）の係（課）との連携 ・市と連携をとりあう。 ・役所との情報交換 ・子育て支援課との連携 ・子どもの日常生活の実態をよく把握し子育て支援課と連絡をとる。 ・行政との連携を通しての教材貸与など。心の支援行政と連携することが必要だと思う。 ・ソーシャルワーカーとの密な連携。 ・スクールソーシャルワーカーに依頼する。 ・学校と教育委員会（市）との情報交換 ・市と教育委員と学校現場がより強い連携をしていくことの必要性を感じる。 ・児童相談所等の専門機関と連携したり、保護者に給付金の申請を勧める。 ・地域（民生委員）との連携
---------------	------------	---



<p>保護者との 信頼関係構築</p>	<p>16 件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との密接な対応 ・普段から、家との連絡を密に取るようにする。子どもの言動に注意する。他の機関との連携をとり、子どもの状況を把握する。 ・家庭との連携を密にし、何でも相談できる間柄になれるような関係をつくる。 ・家庭訪問などで、家の状況を把握する ・保護者の就労状況の確認。年収の把握（金融機関との連携）等があればよい。（個人情報に関わることなのでむずかしいが。） ・子どもや保護者とコミュニケーションをできるだけとる。 ・保護者との信頼関係を築き、相談にのる、アドバイスをするなど精神面で支えていく。 ・家庭との連携を密にしていく。 ・連携し、家庭とのつながりを深めていくこと。 ・家庭の状況把握がしやすい立場に学校は、あると思う。そのことをいかせればと思う。 ・家庭の状況をよく把握し、教育現場で出来ることを話し合い取り組むことが大切だと思います。 ・子どもの様子を把握した時家庭への連絡を密にしていく（実態把握をすばやくする） ・保護者とよく話することだと思う。 ・親との信頼関係を今以上に強くすること。 ・よく、子どもの様子を観察し、家庭との信頼関係を築いたうえで、こまめに連絡をとり合う必要があると思う。 ・家庭訪問で保護者との情報交換を行い、家庭環境を把握する。情報を活かす（貧困世帯の子どもへの手立て）がマニュアル化されているのであれば知りたいです。
<p>子どもへの 理解</p>	<p>7 件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解（話す、観察など） ・子どもとの会話 ・日常の児童観察 家庭との密な連絡 児童との話を大切にす ・子どもの衣服等のようす。身体のようすをよく観察する。 ・早期に把握するには、生徒をよく観察する。 ・子ども一人ひとりに目を配り観察する。 ・要観察
<p>公的支援の 充実</p>	<p>5 件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の経済状態で子どもの進学が閉ざされないように、教育に関する費用がかからないようにしてほしい。 ・教育関係にかかる費用の公費化 ・国（都道府県）からの金銭的な支援 ・行政が教育への補助金を増やし、保護者の負担額を減らす。質問 9 の項目等で、集団に関わること、学習への支援を行う。学校現場への教職員の増数があってのことだが… ・要保護、準要保護などの支援の充実



食料支援	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・「フードバンク」は、とてもよいと思います。気になる児童は、学校でも把握し、教育支援 相談などに知らせることが大切だと思います。(やっています。) ・子どもの状況をよく把握した上で、フードバンクとつなぐ。 ・職員の食料援助 ・複数機関の情報共有による対応の検討と早期に外部機関（フードバンク）への対応依頼くらいしか・・・。
学習支援	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困をもとに出てしまうと考えられる学習意欲が低いことに対し、より手厚い支援を加えたり、いじめの対象となり自己主張や自己肯定感・積極性の低さに対し、周囲の子どもへの、対象児への接し方についてフォローしていくことをしたりすることが考えられる。安心して学べる環境づくりと支援をする。 ・就学援助を進めたり、放課後の学習支援等 ・学習会。現状把握をしたい（本校の） ・学習に必要な物を可能な限り支援する。
家庭環境の実態調査	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の状況を細かく把握→プライバシーのこともあるので、注意が必要。子どもとの信頼関係の強化→子どもから、困っていることを話しやすい環境をつくる。 ・実態把握自体が難しいので、アンケート（子ども対象）を行うなうなどして子どもの声を聞く場を設ける。 ・学校→・毎朝、朝食を食べられない児童には、中休みなどに、余った牛乳やパン、おにぎりを食べさせる。（今の勤務校には、まったく朝食を食べていない児童は、いないので、この取り組みは行っていません。）こうゆう取り組みを行なったという学校の話聞いたことがある。①こまめな実態調査②*集金や積立金で毎月未納の家庭は把握できている。経済的に厳しいことが推そくされる。学校と行政の個人情報にあたるのかもしれないので不可かも。→又はフードバンクとの連携情報の共有化
校内での連携	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・今以上にできるかは、わからないが、現在も行っている、子どもの、観察をしっかりし、疑問をみのがさないこと、そして、それを、職員で共有していくことだと思う。 ・教職員間の連携をとり、子どもについて情報交換を密にすること ・服装、表情など毎日の児童観察により、気づいたことを学校全体で共有し、関係機関に知らせるなど、できることを行う。
休みの間の食生活把握	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中は給食がないので、その期間どのように過ごし、どのような食事をとっているのか どこかの機関で知ることができれば.. ・給食がない、夏休み、冬休み、土日、の食生活などが不明なところが多い。



その他	6 件	<ul style="list-style-type: none">・情報を専門機関に伝える。←ラインを作っておく 制度などの情報を保護者に伝える。←教職員への情報の伝達と理解システム・逆に、教師が何ができるのかを教えてほしい。金銭的な援助ができるわけではなく、そのような場面にあったときに対応に困る。・根本的な対策が必要なのでは無いでしょうか。具体的にはないのですが、「魚を与えるのではなく、魚の採り方を教えてあげる」的な、子どもを養う親の仕事や親業に対応しなければいつまでも解決しないと思います。・「必要な支援」というものが具体的にどういうものなのか知る必要がある。・支援についての周知。教育機関、行政など協力していくこと（他との連携学校は何をするのかはっきりとした役割の確認）が大切だと思うが、プライバシーに関係するところもあるので（実際の家族関係や収入など）むずかしいところもある。・ささいなことを詰めずに、大切なことを見極める。忘れ物などは貸せば良い。教師がすすんでかかわり、接し方の手本を示す。ほめることを教師がつくり出し、ほめる。合理的配慮の提供
-----	-----	---

2016年9月29日

『子どもの貧困の把握に関する教育機関向けアンケート調査』



締切日 10月20日(木)

NPO 法人 フードバンク山梨

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

『子どもの貧困の把握に関する教育機関向けアンケート調査』

本調査は独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業により実施致します

NPO法人フードバンク山梨

I.子どもの貧困の把握に関して

質問〔1〕 子どもが貧困状態にあると感じたことがありますか。**2015年4月以降の事例についてご回答下さい。** 該当する方に○をつけて下さい。

ある ・ ない

「ある」と回答された方は以下の質問にお答え下さい。「ない」と回答された方は質問〔4〕からご回答をお願いします。

質問〔2〕 子どもが貧困状態にあると感じたのは、どのような場面・状況でしたか。該当するものに✓(複数可)し、具体的な事例をお書き下さい。**2015年4月以降の事例についてご回答下さい。**

子どもの衣服の汚れ・綻び

子どもの行動

子どもからの訴え

体格

体調・健康面

家庭訪問の際に親から困窮状況について話があった。

家庭訪問の際に親から困窮状況に関する話はなかったが、生活状況から判断した。

家庭訪問の機会以外で困窮状況に関する相談を受けた。

何らかの支払い、集金の未納

学用品などが買えないことがあった。

その他

質問〔3〕 子どもが貧困状態であると感じた際に、どのような手立て・対応をされましたか。
具体的にお書き下さい。2015年4月以降の事例についてご回答下さい。

質問〔4〕 2015年4月以降にスクールソーシャルワーカーに相談をしたことはありますか。該当する方に○をつけて下さい。

ある ・ ない

質問〔5〕 「ある」と回答された方は、以下に理由と状況を差し支えない範囲でお書き下さい。

Ⅱ.子どもの貧困への対応 これまでの経験（2015年4月以前を含む）からお答え下さい。

質問〔6〕 貧困状態にある子どもを発見した時、学校として十分な対応ができていると感じますか。
当てはまるものに○をつけてください。

できている ・ ややできている ・ わからない ・ あまりできていない ・ できていない

質問〔7〕できている、ややできている、と回答した方にお伺いします。具体的にどのような対応策をとっていますか。

--

質問〔8〕できていない、あまりできていない、と回答した方にお伺いします。十分な対応が出来ていないと感じる理由には、どのようなことが挙げられますか。

--

Ⅲ.貧困が子どもに与える影響

質問〔9〕一般的に、貧困世帯（と思われる）子どもは、それ以外の子どもと比べて、以下の項目が当てはまると思いますか。それぞれについて、ひとつだけ○をつけてください。

	とても 思う	やや 思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	まったく 思わない
宿題への取り組み状況が よくない					
自己主張や積極性が低い					
自己肯定感が低い					
学習意欲が低い					
いじめの対象になりやすい					

質問〔10〕子どもの貧困を今以上に早期に把握し必要な支援を行なうために、教育機関は何ができますか。改善できる点などがございましたら教えて下さい。

--

※質問は以上で終わりです。お忙しいところ、ご協力いただき、誠にありがとうございました。



認定 NPO 法人フードバンク山梨

〒400-0214 山梨県南アルプス市百々3697-2

TEL 055-298-4844

FAX 055-298-4885

E-mail info@fbyama.com

HP www.fbyama.com